

浮金小だより



発行：令和元年12月24日（火）

文責：浮金小学校長 松崎 健一

元気に明るく2学期を終了！

本日、2学期を無事に終了することができました。日々の授業をはじめ、大きな行事等も数多くありましたが、保護者の皆様や地域の皆様にご協力いただくことで、充実した学校教育を展開することができました。ありがとうございました。



19日には、町内の小学4年生が小野新町小学校に集まり、今年度最後の小小交流を実施しました。本校の6人の4年生からは、「とても楽しかった」「たくさん話をした」との声が聞かれました。新たな友達を増やせたようです。他の学年も、授業や見学学習の交流をとおして統合に向けて有意義な機会とすることができました。



多目的ホールのツリーは、PTA会長さんが準備してくれた七夕飾りの竹を幹として再利用し、用務員さんが種から育てたコキアと、3・4年生がお世話した緑のカーテンのヒョウタンをメインに作製してみました。楽しんでいただけましたか。



小野町をよりよくするために…



17日（火）に小野町子ども議会が開かれました。6年生が参加し、本校からも2名が子ども議員となり意見を述べました。侑音くんは商店街の活性化を図ることについて、柚実さんは食物アレルギーに対応した食堂や商店の整備や誘致について、それぞれ具体案を提示しながら堂々と述べることができました。

議会の雰囲気や様子を体験し、6年生にとってこれから学ぶ「生活と政治」の学習につながる貴重な時間でした。



体育専門アドバイザーが来校

体育専門アドバイザーを招いて体育科の授業をしました。全ての学年に入ってもらい、縄跳びや跳び箱の指導をしていただきました。動きのポイントを教えてもらった子どもたちは、次々と技に挑戦し汗をかきながら楽しく運動することができました。



土曜授業 ～授業参観と教育講演会～

たくさんの方に来校いただき授業を見ていただきました。いつになく子どもたちも張り切って学習していたようです。子どもの「何でかな?」「こうじゃないかな?」などのつぶやきをつないでいくのが教師の腕の見せ所です。今後も、子どもが「分かる・できる」授業に努めます。



5・6年生の理科の授業では、保護者参加型の授業でした。保護者にも実際に実験を行ってもらいました。授業の実際を体験していただき、子どもたちが理科を知的に楽しんでいる様子をご覧いただけたことと思います。

＜スクールソーシャルワーカーについて＞

授業参観後に、教育講演会を実施しました。小野町スクールソーシャルワーカー（SSW）の松尾さんにお越しいただき、SSWの役目や具体的な仕事内容や活動の実際についてお話いただきました。小学校の統合を控え、保護者の方々の相談窓口を増やし、不安解消の手立ての一つとなればと考え計画しました。SSWの存在についてご理解いただけたと思います。必要性を感じたときに、ご遠慮なく学校に相談してください。



見守り隊の皆さん ありがとうございました。



2学期中も、ほぼ毎日子どもたちと一緒に歩き、安全確保してくださっていた見守り隊の方に、御礼の言葉とともに、児童一人一人が書いたメッセージを渡し、感謝の気持ちを伝えました。寒い朝も子どもたちを迎えに早い時間から集合場所まで歩いて向かってくださっています。ありがとうございます。



ハイタッチは欠かせません！

サービス倫理全体会 ～PTA役員の方々も出席～

自分の職場から不祥事を起こさないためにも、年間を通して計画的にサービス倫理に関わる研修を実施しています。第8回のサービス倫理全体会には、保護者を代表してPTA会長・副会長さんにも参加していただきました。今回の内容は、「飲酒運転」「交通加害事故」「交通違反防止」についてでした。JAFの実験・検証映像を見ながら研修しました。また、最近発生した「高速道路での逆走」や厳罰化された「ながらスマホ」の危険性について確認しました。最後には、参加いただいたPTAの方々から意見や感想をいただきました。



お忙しい中ご参加いただきありがとうございました。

校長室より

校内の生徒指導全体会で、先生方に「子どもは今を生きている」という話をしました。

下校途中のことです。目の前に大きな水たまりがあります。さて、子どもはどうするかを想像してください。ほとんどの人が同じ光景を描いたことと思います。楽しそうに水遊びを始める子どもの姿です。子どもは目の前の状況を見て「面白そう」「楽しそう」と感じたら止まらないものです。靴はびしょ濡れ、ズボンも汚れるかもしれません。でも、子どもはそんなことを考えません。子どもは今を生きているんです。「ここで水遊びしたら買ったばかりの靴が濡れてしまうな。ズボンまで汚したら家の人洗濯するのも大変だし・・・」なんて、水たまりを前にして考える子どもの方が不自然さを感じます。勿論、ある程度の年齢になるとそうではありません。靴やズボンを汚さないよう水たまりで遊ぶことはしないはずですが、そう考えると、大人になると未来を生きているとも言えるかもしれません。賢明だと思いますが、未来や周りを考え過ぎてしまうと、すべき行動を躊躇してしまふこともあります。この先起こるかもしれない面倒なことを考えずに行動できる子どもがうらやましいと思うこともあるんです。

さて、子どもたちが学校生活の中で先のことを全く考えずに行動したら大変なことになります。危険を考えずに廊下を走ったり、時間を考えずに遊び授業に遅れたり、学校生活が成り立ちません。だからルールを教えます。安全に過ごすために廊下を歩くこと、楽しくみんなで学校生活をするために時間を守ることなど、たくさんのルールを教えます。

でも、子どもはそのルールを忘れてしまいます。そして叱られます。ルールを守らないことが何回も続くと、「また走ったな！」「また宿題をやっ

こないな！」と、しまいには怒られてしまうこともあるでしょう。子どもは、次は怒られないようにしようと思いますが、怒られないようにやるのが子どもです。今を全力で生きているからです。どうすればよいのでしょうか。

つい先日の学校での出来事に、その解決策の一つが見えたように思いました。

校長室で仕事をしていると、ドタドタと走って職員室に来た子がいました。「また誰か廊下を走っているな！」と、私はムツとしていました。でもその子は、丁寧にノックをして、はきはきと用件を伝えることができていました。急ぐ用件があったようです。用件が済んで教室に戻ろうとしたその子に対して、A先生が「戻るときは歩いて戻ろうね」と。その子ははっとしたんでしょうね。校長室には「ハイ」の返事とトタトタと歩く音だけが聞こえました。A先生は、走ってきたことを最初に叱るのではなく、まず用件を聞いてから、最後に子どもに気づかせるように一言をかけたのです。



子どもは今を生きています。そのままでは何事もなく上手くいくわけがありません。上手くいくように、その都度、子どもに気づかせる指導が大切なんだと思うのです。ルールの本質に気づけば、子どもは考えて行動しようとします。その積み重ねが、正しい判断力を身に付けることになるのです。あれはダメこれはダメの否定的な指導だけでは、すべき行動を躊躇する人になってしまいます。「子どもは今を生きている」と分かっていたら、指導の仕方も変わってきます。

来年は、子どもたちにとって大きく環境が変わる年になります。少しずつ後先のことや周りのことを考えながら、元気に明るく**今を生きて欲しい**と思うのです。だから、来年も全力で子どもたちと向き合っていきます。